

## 【中国からの日本ウォッチング—人民日報の日本関連記事から】

2006年4月3日の人民日報にADK広告社の稲垣正夫会長のインタビュー記事が大きく掲載されました。その一部を紹介すると、

稲垣氏は1922年生まれ。若い頃から儒学に興味を持ち、四書五経や二十四史を愛読し、中国文化に深い憧憬を抱くようになった。改革開放が始まると稲垣氏は欣喜雀躍、1979年、早速調査団を率いて訪中、日本の広告会社中国進出第一号になった。

氏は日中文化交流を熱心に推進、2004年の大相撲の中国講演、翌年の歌舞伎公演などを実現、また、2005年には、今後10年間、毎年、修士課程の留学生7、8名を援助する〈東京大学ADK育英資金〉を創設した。

そして、記事の最後では、墨子や荘子など、稲垣氏の中国古典に対する深い造詣がたっぷり紹介されています。

この記事の表題は〈儒家思想惠及世界〉（儒家思想は世界を潤す）。ギクシャクした日中関係再構築への熱意と、社会のモラル再構築へ向けた最近の儒教復活の趨勢を見事に反映した興味深い記事と言えますでしょう。